

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度 第1回所沢市産業振興ビジョン推進会議
開 催 日 時	平成30年8月29日(水) 10:00~12:00
開 催 場 所	所沢市役所高層棟8階 大会議室
出 席 者 の 氏 名	成田知栄子 大谷木康一 大木敬治 三上誠 新井重雄 梶由紀子 河藤佳彦 千年篤 朝倉はるみ 石原優 櫻田潔
欠 席 者 の 氏 名	
説 明 者 の 職 ・ 氏 名	
議 題	(1) 所沢市産業振興ビジョン推進会議の今後の進め方について (2) 意見交換等 (3) その他
会 議 資 料	資料1-1: 所沢市産業振興ビジョン推進会議条例 資料1-2: 所沢市産業振興ビジョン推進会議 委員名簿 資料1-3: 所沢市産業振興ビジョン推進会議の概要 資料1-4: 所沢市地域経済動向調査(建設業・製造業)調査票 資料1-5: 所沢市地域経済動向調査(商業・サービス業)調査票 資料1-6: 所沢市産業振興ビジョン推進会議の今後の進め方 参考資料1-1: 第6次所沢市総合計画 素案
担 当 部 課 名	産業経済部 部長 村松由朗 産業経済部 次長 市川博章 産業経済部 産業振興課 課長 青木邦雄 主査 原田裕之 主査 村田貴紀 主査 高橋利成 主任 菅井悠登 産業経済部 商業観光課 課長 柳田晃芳 主幹 吉永寿久 産業経済部 農業振興課 課長 三枝恵一  産業経済部 産業振興課 電話 04-2998-9157

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
青木課長	開会
村松部長	あいさつ
事務局	<p>「会議の趣旨説明」として、</p> <p>①所沢市産業振興ビジョンについて、 所沢市産業振興ビジョン及び参考資料 1-1 に基づき、説明。</p> <p>②所沢市産業振興ビジョン推進会議の趣旨説明について、 資料 1-1 から資料 1-5 に基づき、説明。</p>
藤本市長	委嘱状の交付
藤本市長	あいさつ
各委員	<p>自己紹介</p> <p>会長・副会長の選出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会 長：河藤佳彦</li> <li>・副会長：三上誠</li> </ul> <p>会長・副会長あいさつ</p>
事務局	<p>会議の運営について</p> <p>①会議の公開・非公開</p> <p>②会議録の記載方法と発言者の表記の方法</p> <p>③会議録の確定方法</p> <p>以上の 3 点について、説明</p> <p>特に意見・質問がないため、事務局の説明どおり会議運営を行う。</p> <p><b>【決定事項】</b></p> <p>①会議については、原則「公開」とし、非公開情報について審議を行う場合は事務局より各委員に諮ることとする。</p> <p>②会議録の作成は要約方式とし、発言者は個人名を出さず「委員」</p>

事務局	<p>と記載することとする。</p> <p>③会議録は、各委員が確認の上、会長の承認をもって確定することとする。</p> <p>議事（１）「所沢市産業振興ビジョン推進会議の今後の進め方」について</p> <p>資料 1-6 に基づき、説明。</p>
会長	<p>議事（２）意見交換等</p> <p>今後の会議では「産業振興ビジョン推進状況確認シート」に沿って事務局より報告してもらい、それに対して各委員からご意見をいただく形で議論するが、今回は第 1 回目の会議ということで、産業振興ビジョン全体のこと、推進会議の今後の進め方等大きな部分で意見交換を行いたい。疑問点、印象等何でもけっこうなので、皆さんの基本的な認識について自由にお話を聞かせていただきたい。</p>
委員	<p>この「所沢市産業振興ビジョン」はビジョンという名称だが、その内容はアクションプランの性格が強いと感じる。重要なのは、ビジョンを作るだけでなくそれが具体的にどう動いて成果をあげたかという点だ。資料 1-6 の「2. 推進状況確認方法」にあるように、先導プロジェクトとして具体的なアクションを特定し、その中でビジョン計画期間のうち、前期 5 年間に重点的に取り組む事業について数値目標を掲げ、その取組内容と進捗状況を数値的に計測できる形を組み込んでいることは非常に良いと思う。この「進捗状況確認シート」を記載するにあたり、その取組と目標の関係が明確にわかるよう具体的に記載することが重要である。</p> <p>もう一点、「所沢市産業振興ビジョン」の目的について指摘したい。先ほど市長のあいさつにもあったように、これまで主にベッドタウンとして発展してきた所沢市が、サラリーマン住民のリタイアにより税収の構造が変わってきた中で、産業で稼いでいかななくてはいけないという方針のもと、このビジョンを策定したと理解している。特に、基本方針 2「既存産業の活性化と新たな展開」の中で「2-1 地域を牽引する事業者等への支援」について、従来の自治体の産業振興政策が市内事業者を全て支援しなければということで支援が中途半端になりがちだが、これから稼いでいける事業者を特定して積極的に支援するという事は、市役所としては大英断であり、大</p>

	<p>変評価している。国でも昨年「地域未来投資促進法」を策定したが、これもまさに地域経済を牽引する事業を応援していこうという法律である。こうした国の地域経済政策とも本ビジョンは整合が取れていると思うので、今後一緒に進めていきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>今のご意見は、1つはアクションプランとしてしっかりと進捗管理をしながらビジョンを進めていくこと、もう1つは、先導的な事業者ターゲットを絞った支援をしていくことの重要性を指摘したと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>「産業振興ビジョン」の70ページ、「先導プロジェクトのロードマップ一覧」の基本方針1「発展的なイノベーションの創出」の先導プロジェクトA「産業基盤の強化プロジェクト」は、ビジョン計画期間の矢印が2018年からスタートしている。一方、本日から送付したという「地域経済動向調査」のアンケート調査票の内容を見ると、市内事業者の現状把握が中心になっているように思える。</p> <p>基本方針2に「既存産業の活性化と新たな展開」とあるように、この問題も確かに重要であると思うが、では、発展的なイノベーションの創出についてはどのような取組をしていくのかという点がわかりにくい。既存事業者に対するアンケートという手法だけでは、この点を明らかにすることは難しいのかもしれないが、たとえば、商工会議所等とともに、どういった新しい産業を導入すればよいのかというテーマにも取り組んでいくことが重要ではないか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご指摘があった基本方針1「発展的なイノベーションの創出」についてはもちろん重要な課題として認識している。現在、産業用地の創出等に取り組んでいるが、その成果が出るまでには一定の時間がかかると考えており、今できることから進めて行くという方針で取り組んでいる。</p> <p>また、基本方針2「既存産業の活性化と新たな展開」については、市内の様々な産業が抱えている課題を整理して取組を進めて行くものだと考えている。</p> <p>この2つの課題は、どちらが優先ということではなく、両方を並行して進めていくべき事業であると考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>これは引き続き議論を進めて行くべき課題であると思う。企業誘</p>

	<p>致については、ビジョン策定委員会の中でも議論が出たが、工業団地を作る等の基盤整備については、都市計画との関連もあり時間がかかるため、既存の用地に新しい産業を誘致するなどの取組から進めていくという理解をしていたが、そうした認識でよろしいか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。我々も今、情報通信産業等、都市型産業の誘致に力を入れており、今年度より補助金制度を策定するなどして取り組んでいるので、その点もご理解いただきたい。</p>
委員	<p>当方の専門領域から、基本方針3「観光を軸とした新たな魅力とにぎわいの創出」について意見を述べたい。「ところざわサクラタウン」が2年後にオープンする事になっており、ロードマップ上はまだ点線で示されているが、完成に向けた情報発信は必要である。先ほど、ホームページを確認してみたところ、最新のニュースが昨年の6月頃のものであった。ところざわサクラタウンができていないから、まだ情報を発信しなくて良いというものではない。あの場所は今後の所沢市の観光の核となる場所でもあり、早め早めの情報発信により機運を盛り上げていくことをお願いしたい。アニメの舞台にもなっている地域であり、既存のコンテンツを活用して情報発信をしたり、人を集めるなどは可能である。完成を待つということではなく、完成まであと2年しかないという認識で、施設のPRは早め早めにやっていただきたい。</p> <p>また、観光産業として見た場合、観光客について、通常は市外からのお客を想定するが、市外からのお客が所沢に来て本当にお金を落としてくれているのかという視点が重要である。「地域経済動向調査」について、8月実施分はすでに始まっているが、11月の調査ではこうした点を把握する事も重視していただきたい。</p>
会長	<p>所沢市にとって「COOL JAPAN FOREST 構想」は非常に重要な施策であると考えます。これを今後うまく活用していく上で、委員が指摘したように情報発信は重要である。どんなに良い施策をやろうとしても、それを外部に知ってもらわないと意味がない。</p> <p>もうひとつ、市外からの観光客が市内にお金を落としてくれているのかという問題。この点は実態把握をしっかりとやらなくてはいけない。</p>

委員	<p>埼玉県では、産業振興施策・労働施策を効果的に推進していくため、「埼玉県産業元気・雇用アップ戦略」（平成 29 年度～33 年度）という 5 カ年計画を平成 29 年 3 月に策定している。その中で、10 個の施策を進めている。その内容は、中小企業の支援、先端産業の振興、企業誘致の促進、商店街の振興、観光の推進など、所沢市のビジョンの 4 つの基本方針とも関連が強いので、県の施策との関連も意識して取り組んでいただきたい。</p> <p>また、先ほど、国の委員からも指摘があった「地域未来投資促進法」に関連して、埼玉県でも昨年の 12 月 22 日に「地域未来投資促進法に基づく基本計画」を策定した。これは、「埼玉県基本計画」、「埼玉県鶴ヶ島ジャンクション周辺地域基本計画」、「埼玉県熊谷市基本計画」の 3 つで構成されている。</p> <p>所沢市が対象のものは、県内全域を対象としている「埼玉県基本計画」であり、先端産業、食品製造業、流通加工業などの「稼ぐ力」を強化することがポイントとなっている。所沢市内の製造業も今後事業計画に参加できるので、それも考慮したうえで取り組んでいただきたい。</p>
会長	<p>国や県の施策との連携は非常に重要である。所沢市独自の施策を進めていくのは基本だが、そこに国や県の政策的な資源（資金、制度、人的な支援）をうまく取り込んでいくことについて、地域の知恵が示される事になる。国や県の施策があることも念頭において、地域独自の施策を展開していくことが重要である。</p>
委員	<p>所沢市の地域の情報を発信する立場から、ビジョンを拝見して感じた事をお伝えしたい。</p> <p>ビジョンの内容が産業別に整理されていないためにわかりにくいということはあるものの、その分、様々な産業が関連しあって発展を目指しているのだという方針が伝わってくる。</p> <p>先ほど、他の委員も指摘していた事だが、情報の発信について、市が何をやろうとしているのかがなかなか市民まで伝わってきていないように感じる。私は「所沢なび」という web サイトの運営に関わっているが、以前に書いた「ところざわサクラタウンの着工式」の記事へのアクセス数が今でも多く、ランキング上位に入っている。これは、ところざわサクラタウンの動向に関心を持って検索してくれる市民が多いのではないかと思う。多くの市民が注目してい</p>

<p>会長</p>	<p>る施策なので、行政と市民をつなぐ媒体にもっとインフォメーションを出して欲しい。</p> <p>ビジョンの基本方針3「観光を軸とした新たな魅力とにぎわいの創出」にある先導プロジェクトC「所沢ブランドの向上プロジェクト」に関連して、先日、私がメンバーに加わった NEXT 商店街プロジェクトで、ネット上の仮想商店街（商店街通販サイト）の開設に向けた準備を進めており、9月1日スタートの予定である。いくつかの商店に取材をし、所沢市にはこんなにすばらしい商店、企業があったのだと気づいた。良い商品、歴史のある商品、どんな人がどんな想いで作っているのか、という情報をもっと発信していきたい。また、新しく所沢市にやってきた住民が知らないような所沢市の名産品についてきちんと伝えなければという使命を感じている。</p> <p>情報発信の重要性、とりわけインターネットを活用した発信の必要性についてのご指摘だと思う。今後、具体的に取組を進めるための議論ができればと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>農地の維持管理という問題に関し、意見を述べたい。所沢市では現在約6割が市街化調整区域であるが、市街化調整区域内の農業振興地域について、産業振興ビジョンでは農業振興地域整備計画の見直しを行い、生産意欲の高い農家が安定して経営できるよう推進していくと記載されている。市内にはいわゆる「専業農家」、農業だけで生計を立てている、立てなくてはならない農家がたくさんいる。農業を経営していくための環境整備への取組をお願いしたい。</p> <p>農地を取り巻く環境が非常に難しいのは、今後、農地法が改正され、所有から利用へという流れの中で、一般の法人や認定農業者などが農地を所有していくという問題である。この地域に住んでいない方、法人格がない方が利益最優先で農地を所有することに不安を持っている。市街化区域と市街化調整区域をバランスよく保有している農家は農業に対する投資ができて、観光農園などの新しい取組ができるが、生産しかできない農家もたくさんいる。農家を守るという視点からの施策をぜひお願いしたい。</p>
<p>会長</p>	<p>農業のあり方、農地のあり方、そして工業用地のあり方、いずれもとても重要で、こうした部分は都市計画との関連が強い。都市計画部門とも情報交換、連携をしていただいて、今後の方向性の議論</p>

<p>委員</p>	<p>をしていければと思う。</p> <p>所沢の農業は大都市近郊農業の性格が強い。そうした特長も生かしながら多様な農業を進めていければと思う。</p> <p>商店街連合会の立場で言うと、所沢市内の商店街が市民の皆さんに愛されてできるだけ存続していければと考えている。商店街の課題として指摘される、空き店舗、経営者の高齢化などは、まさに今日の日本の課題でもある。所沢市の場合、商店街連合会に 20 年前には 43 の商店会が加入し、2,000 名を超える会員数があったが、先日確認した商店数は 1,286 店舗だった。廃業したり、土地や建物はあっても実際には商売をしていないという方が多くなった。商店街のあり方についても、「商店街」を名乗っていても実際は町内会的な、忘年会、新年会をやるだけの懇親団体となっている例も少なくない。</p> <p>シャッター商店街は統計上少なくなっているように見えるが、そこには一般の方の住宅が建てられていたり、駐車場になっていることで、シャッターが下りている店が少ないといわれている。このような大変な状況なので、産業振興ビジョンの中で記載されている「先進的な商店街」が具体的に何を指すのか、自分としてはよくわからない。世間受けの良いかっこいい言葉を打ち上げるよりも、地道に積み上げていくような商店街に、市も目を向けて欲しい。</p> <p>今の商店街にいちばん求められているのは、地道な、いわゆる昔の商いだと思う。その地域の中で、「この商店街がなくなっては困る」と住民から言ってもらえるよう、応援していきたい。この推進会議で話し合われた情報を地域で頑張っている商店街に伝えていきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>商店街の衰退というのは全国的な問題である。今、委員が指摘したように、地道な商いに取組んでいる商店街には、しっかりと生き残り、再生を支援していく施策が重要であるということであろう。今後も厳しい議論が出るかもしれないが、広い視点から取り組んでいく事が重要である。</p>
<p>委員</p>	<p>観光協会としては、基本方針 3 「観光を軸とした新たな魅力とにぎわいの創出」の担い手となって取り組んでいきたい。今年の 5 月、「西武線沿線サミット協定（西武鉄道、豊島区、秩父市、飯能市、</p>



	<p>所沢市、横瀬町の計6者が加入)」が結ばれ、所沢市内に限定せず、沿線の広い範囲で観光振興に取り組む事になった。</p> <p>観光協会としては、法人化に向けて自由に動ける組織にしていきたい。商業についてはまちのにぎわいづくり、農業については農業振興地域の課題がある。農地が残っても農家が残らなければ農業は発展しない。農業については、観光と関連した所沢のまちづくりという位置づけで進めていきたい。</p> <p>「ところざわサクラタウン」について、観光入込客数を年間150万人と計画しているが、現在、西武球場の観客が年間150万人である。150万人の観客が所沢を通過して帰ってしまうことが問題となっている。ところざわサクラタウンに来た観光客が市内を回遊してくれるような施策が必要だと感じている。西武球場としても「ボールパークイベント」として野球を通じた取組を行っている。こうした取組がところざわサクラタウンと一体となって、所沢を訪れたお客様が地域にお金を落とせるような施策が必要である。</p> <p>先ほど資料として「所沢名物肉汁うどんめぐり！」のパンフレットを配布したが、これも大変好評だ。「ところざわ醤油焼きそば」も西武球場で販売されており好評だ。これらや狭山茶を所沢ブランドとして周辺地域から来るお客様にアピールできればと考えている。</p> <p>市役所の中にインバウンド推進室ができたと聞いているので、外国人観光客の誘致に向けて、市や民間事業者とともに取り組んでいきたい。</p>
会長	<p>観光によるまちづくりという視点が指摘されたが、この推進会議にも観光産業の専門家がいるので、こうした視点も取り入れてこれからしっかり議論していただきたいと思う。</p>
委員	<p>商工会議所としては、「小規模事業者支援法に基づく経営発達支援計画」を策定中であり、その策定にあたり、産業振興ビジョンとの整合を考えているところである。</p> <p>産業振興ビジョンの中で「関係機関との連携を密にしながら」という表現が多くみられるが、情報共有はすごく重要で、市役所との事業の重複を避けるためにも連携の強化が必要である。この会議で議論されたことを自分の職場に持ち帰って情報共有したい。</p> <p>また、これまではそれぞれの事業全てに力を入れてきたが、産業</p>

	<p>振興ビジョンの中で基本方針、先導プロジェクト、ロードマップによって計画の優先順位が示された事で、自分たちとしても取り組みやすくなった。</p> <p>個人の意見になるが、産業振興ビジョンについて、大変助けられたと思う部分は、「地域を牽引する事業者の支援強化」という点を明確に打ち出してくれたことである。地域の中核となる事業者の支援に注力しやすくなるのではと期待している。</p> <p>ひとつ質問だが、「地域経済動向調査」を今日から発送することだが、調査対象について、継続調査として同じ事業者に調査を行うのか、それとも毎回別の事業者に行うのか。</p>
事務局	<p>基本的に調査対象は無作為抽出だが、調査を進めて行く中で回答率があまりにも低いような場合は、回答のあった事業者に再度送付するという事も見据えて調査対象者を絞っていく。</p>
会長	<p>商工会議所の中小企業相談所は地域の企業にとっていちばん身近な存在で重要な役割を担っている。その中で、市の施策とは十分連携をとりながら、意思疎通をして取り組んでいく事がこれから大変重要になってくる。</p>
委員	<p>2つ意見を述べたい。1つは、本日から発送を開始した「地域経済動向調査」の中で、本日の会議にも出席している「埼玉県西部地域振興センター」の認知についての質問事項が入っていない点だ。私が知る限り、我々製造業においては、西部地域振興センターが所沢にあるということを知っている人がとても少ない。西部地域振興センターの存在、その役割について、市内の事業者には知られていない事を認識していただき、そのPR等にも取り組んでいただきたい。</p> <p>所沢は埼玉県の西部地区だが、この地区は県内で最も置き去りにされている。地域の事業者も荒川を渡って県庁まで行かないし、県庁側も荒川をこちらに渡ってこない。この地区には工業、商業、農業、観光と熱い底力を秘めた事業者がいるので、ぜひこの会議を通じて県の担当者は事業者と親交を深めていただきたい。</p> <p>工業施策の市の予算は、12～13年前には、狭山、入間はだいたい一般会計の3%くらいだったが、所沢の予算は0.3%だった。そのくらい工業の予算は少なかった。我々は自助努力でやってきた。所沢は航空発祥の地であり、昔は航空機製造関係の工場が多かった。</p>

<p>会長</p>	<p>その流れから、農業機械の会社も生まれてきた。そうした企業は市の支援策の不足により所沢市を出て行ってしまった。そうした状況によろやく市が危機感を感じて取り組むようになったように思う。市にはせっかく産業施策に関心を持っていただいたので、この会議を皆さんで盛り上げていただきたい。</p> <p>所沢市における製造業の位置づけについて、ビジョン策定委員会の中で議論をしてきた。そうした議論を踏まえて、しっかりと特色を出していく。それによって、国や県の施策を呼び込むこともできるのではないかと期待できる。先の市長の挨拶でも、所沢市はベッドタウンの性格が強いということだったが、そうした地域にあって、製造業には重要な役割があるのだということを認識した上で、所沢の製造業にはどういう特色があるのか、これからどのように伸ばしていくのかということには、重要な論点があると思う。しっかりとその特色を付加価値にして、伸ばしていくことが重要であるという指摘だと受け止めた。</p>
<p>会長</p>	<p>今日の会議では、皆さんに基本的な認識をうかがうということなので、特に結論を出すという事はしない。今後の進め方についても、できるだけ皆さんのご意見をうかがいながら進めていきたいが、基本的には、ビジョンの実現に向けた取り組みの進捗状況や課題について事務局からご提示いただき、それについて委員からご意見をいただくという形をとりたい。</p> <p>事務局には大変な作業をお願いするが、会議の中で委員から指摘された重要なポイントについては、整理をしていただき、それを次の会議につなげていくという形にしていきたいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>議事（３）その他</p> <p>次回日程は 11 月 27 日（火）午前 10 時からを予定している。</p> <p>（閉会）</p>